

祝！ホッケー部東北大会優勝(10年ぶり) インターハイ出場決定！

文責 校長伊藤

やってくれました！6月17日から岩手県で行われた東北大会にて、ホッケー部が3年ぶりにインターハイ出場を決めました。更に勢いそのままに10年ぶりの東北大会優勝です！素晴らしいです。3月末には長年本校のホッケー部を指導していただいた中嶋先生の転勤、そして新体制での挑戦。いろいろなことがあった3ヶ月だったと思います。その中で掴んだ栄冠。本当に心からおめでとうございます。

ホッケー部は7月30日より徳島県阿南市で行われるインターハイに出場します。昨年末の選抜大会ではベスト8でした。それ以上の成績を期待していますが、何よりも自分たちが満足できるプレーをしてきてください。

リーグ戦 9対0 三沢(青森) 3対0 不来方(岩手)
準決勝 4対0 沼宮内(岩手) 決勝 2対0 不来方(岩手)



商業研究部「大人の社会科見学」実施

6月17日に商業研究部が企画した「おとなの社会科見学 産業観光バスツアー」が実施されました。これは、商業研究部員が米沢市内の会社をバスガイドとして案内するバスツアーです。たぶん県内初の取り組みだと思います。行程を紹介します！

米沢駅西口⇒道の駅よねざわ⇒①AGCディスプレイグラス米沢株式会社⇒②サクサテクノ株式会社

⇒昼食休憩 道の駅よねざわ ⇒③アルス株式会社⇒④山形大学スマート未来ハウス

⇒道の駅米沢⇒米沢駅西口

山交観光とコラボした企画には県内外から20名程の参加者がありました。また、その様子はテレビや新聞でも報道していただき、米沢の観光産業の活性化につながったと思います。商業研究部の皆さんお疲れさまでした！



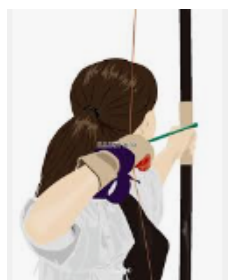
大会結果報告(先週の分です。遅れてごめんなさい)

<弓道部 あやめ杯>

女子団体第3位 女子個人優勝 渡部真弓(2年)

<バドミントン部 国体地区予選会>

女子シングルス ベスト8 本間優華(3年) ※県大会出場



防災訓練実施

6月15日に防災訓練を実施しました。今回は火災を想定した訓練でした。「地震・雷・火事・親父」という言葉があります。怖い物の順番です。地震と雷は人の力で止めることはできません(近年は緊急地震速報や天気予報の精度があがっていますが)。火事は心がけ次第で防ぐこともできるし、知識があれば適切な消火をすることができます。今回は、米沢消防署の皆さんに火災についての様々なお話をお聞きし、更にはクラス代表生徒により消火器を実際に使った訓練も行いました。災害が起きた時、何よりも大切なのは「命」です。万が一の時には自分の命を守る行動を！



米商のお宝の謎に迫る！

120年の歴史ある米商にはお宝がたくさんあります。その中でも注目されているのは渋沢栄一の揮毫です。大正11年に揮毫されたことは分かっていますが、どのようにして手に入れたかは謎のまま。実は私はその謎を探っています。今のところ最有力な情報は赤湯出身の日本銀行総裁の結城豊太郎の紹介があったのではないかと推測しています。

当時の渋沢栄一は一介の地方高校長が情熱を持って揮毫依頼をしたとしても、簡単に会えるような人ではありませんでした。そこには必ず仲介をしてくれた何者かが存在すると考えています。それが結城ではなかったと思うのです。結城が日本銀行総裁の時に副総裁を務めたのが、渋沢栄一の孫の渋沢敬三。とにかくいろいろな接点となる材料があるのです。

今回、結城豊太郎が好きな言葉「経国済民」(世の中を治め、民を救う)の扁額が米商に残されており、結城記念館には無いことがわかりました。新聞やテレビでも大きく取り上げていただきました。渋沢栄一の揮毫の謎は解けたわけではありませんが、本校に新一万円札の肖像となる渋沢栄一の扁額と、それを発行する日本銀行総裁の扁額があるというのは、凄いことですしロマンがあります。



結城豊太郎の「経国済民」「恵風和暢」の扁額について考察する鈴木かなえ館長(左)と伊藤広幸校長
米沢市・米沢商業高

13日に創立120周年を迎えた米沢市の米沢商業高(伊藤広幸校長)で、大蔵大臣や日銀総裁などを歴任した結城豊太郎(1877~1951年、南陽市赤湯出身)が「経国済民」と揮毫した扁額が見つかった。同日の創立記念日に合わせ、市立結城豊太郎記念館の鈴木かなえ館長が同校を訪問。同校の校訓を揮毫している実業家・渋沢栄一(1840~1931年)と結城との関係性などについて考察した。

米沢商高に 結城豊太郎 揮毫の扁額

同校の創立100周年記念誌には、1902(大正1)年の創立30周年の際、当時日本興業銀行総裁の結城が記念講演を行い、講演後に「経国済民」の言葉を揮毫したと記されている。扁額は長く学校の資料室に眠っていたが、昨年夏、結城と同じ赤湯出身の伊藤校長(58)が再発見した。同校には1922(大正11)年の創立20周年の際、渋沢が校訓の進取の文字を書いた扁額がある。伊藤校長は「地方の学校と渋沢をつなげる役割を結城が果たしたのでないか」と推測し、鈴木館長を抱いて結城の扁額を持つ意味について見解を求めた。

鈴木館長によると、渋沢による揮毫の翌年以降、渋沢と結城に深い関わりがあることが分かってきた。ただ、それ以前の関係はあまり明らかになっておらず「調べてみたい」と引き取った。一方、結城の「経国済民」の扁額には「尊敬していた渋沢の影響がありそう」と推測している。渋沢が亡くなったのは結城になる揮毫の前年。揮毫した35年には、親交の深い井上達之助、国鉄人(血闘事件)で失脚している。揮毫1カ月前の5月には5・15事件も発生した。こうした社会情勢もあり、自身と渋沢がともに大切にしたい「世の中を治め、民を救う」の意の「経国済民(経世済民)」の言葉を書いたのではないかと分析する。

今回、結城の扁額は「恵風和暢」(心地よい風が吹く)のどかた和やかなことと書いたものも見つかった。こちらの来歴は明らかになっていないが、いずれも結城の雅号「醒睡」の文字が入っている。鈴木館長は「結城と渋沢の経済や人材育成への信念は共通しており、2人の書が同じ学校にあることに価値がある」と話す。(阿久津輝)

「経国済民」と「恵風和暢」、昨夏発見 渋沢栄一との関わりも浮かぶ

米商スケッチ

- ・もうすぐ7月。3年生の進路本番に突入です。進路室前には様々なパンフレットがありますが、その中に宝塚音楽学校のパンフレットがありました。感動です！
- ・米商のファッションリーダーと言えばALTのジャブ先生です。あまりにもお洒落です。特にシャツのセンスが抜群です。

さくら連絡網の「健康チェック」は休日もお願いします！

